●くさかい・りょういち
1976年9月生まれ。秋田市土崎出身。秋田市在住。バンドhalos[ハロス]として2005年ビクターエンタテインメント:SaaS Recordingsよりデビュー。以降5枚のアルバムとシングル1枚をリリース。2007年、東北最大級の野外ロックフェス「ARABAKI ROCK FEST.07」メーンステージへの出演。みずしな孝之氏原作「けものとチャット」OVAへの主題歌曲制作提供。秋田内陸縦貫鉄道CMソングに楽曲提供。土崎港商友会創立50周年記念テーマソングの制作提供。2014年11月、5枚目のアルバム「PLAY」をリリース、現在全国ツアー中。

発売元："T"RUST OVER 30 recordings/Rolling Thunder Records
販売元：BRIDGE INC.

ミュージシャン　作詞・作曲家

草階 亮一

人と自然の間に

私の父の出身は岩見三内の台地区、母は井川町井内地区。私が生まれた土崎将軍野地区も昭和50年代は松林と石油掘削機と田園に囲まれた穏やかな地域でした。そんな環境と父の影響で私は渓流釣りや山菜、キノコ採りを趣味としていて、今もシーズン中は制作も忘れてしまうほど夢中になってしまいます。

街と山とを隔てる里山、田畑を潤す水の源はもとより、引き込む水路のよく整備された美しさ、人の手と生活の見える大事な営みの一端です。里山は人間界と自然界の中間にあって、血液のように人間界を巡るその清流を引き込むのがお百姓サンたち、食と環境を提供してくれているすごい人たちだっていつも思わされます。

私のバンド「ハロス」のメンバーでピアノを担当する宮崎は青森県五所川原市で花農家を営んでいます。ホームセンターなど量販店との値下げ競争に巻き込まれまいとアイデアを練る姿をいつも見掛けます。バンドのツアー先で仲買業者さんにあいさつにいくことも。

花や音楽は生きていくために直接必要とされる物ではありませんが、私たちも誇りを持ってもの作りをしています。山と街の間に、実生活と趣の間に、お百姓サンと消費者の間に、ミュージシャンとオーディエンスの間に必要なのがJAグループさんのような存在なのかなと思っています。

悲しい話ですが、どんな山奥に分け入っても、何本沢をまたいでも、釣り人や山に関わる人間が投げ捨てていったなんらかのゴミを必ず目にします。人が入り込む全ての場所に必ずゴミが投げ捨てられます。山や里山に限った話ではないですが…。せっかくの人と自然の中間部が、私たちを含めた人間に汚されてしまいます。こういうグレーな部分、取っ付き難い部分も自然界と人間界の中間部ですね。脆(もろ)く代え難いものを自分たちで壊しているうちというのは自覚がないものなのかもしれません。食だったら身体、音楽だったら心にさまざまな影響を与えるはずなのに、変調を来して初めて重要性や愚かさに気付くのかもしれません。

バンドでの演奏ツアー先で一番困るのはやっぱり水と米です。秋田の人間はもう今のお米以下の米を継続して食べ続けることができない体になっているのです。お酒ももちろんのことです。

生産者、消費者、JAグループ。山から流れてきた水を引き、育てた作物を食べて健やかに生きる。単純なサイクルの中には心配りや正直さのような脆(もろ)く代え難い清流が血液のように全体を潤していくようなことが大事で、うまく機能していなければ不適正なゆがみを生んでしまうのかもしれません。情報過多で一見多様化したかのようなニーズに生産者や供給側は正しい情報や実情をアナウンスし続けていくことが大切なのだと感じています。何がどんな恩恵やリスクを生むかを個々に考えていくきっかけになるのでしょう。積極的に生きていきます。